岡大発ベンチャーな人紹介

高市　和子さん

教育大手・ベネッセコーポレーション執行役員を経て、広島県教育委員会の民間人校長に応募。今年4月、6年ぶり2人目として採用された高市和子さんに、教育にかける思いや転身の決断について語っていただきました。

▶高市　和子（たかいち　かずこ）
愛媛県伊予市出身
1959（昭和34）年生まれ
1979（昭和54）年　法文学部史学科入学
1983（昭和58）年　法文学部史学科卒業
福武書店（現・ベネッセコーポレーション）入社
2010（平成22）年　広島県教育委員会の公募による民間人校長として採用

教育の役に立ちたい

執行役員時代に受けた若手幹部の社外研修と、「進研アド」という関連会社での経験が、校長を志した大きなきっかけです。いろいろな企業から幹部が集まった研修には、グループでテーマを決め、視察旅行や聞き取り調査などを自分たちで計画、実行する実践的なものがありました。日常に追われて忘れかけていた問題を意識でき、「こんな授業を学校で受けられたら」と思いました。高校に大学の取り組みをPRする進研アドでは、ゆとり教育への対応や、不登校など高校が直面する課題を知りました。

社会の成熟や少子化で、大人は過保護になり、子どもも無理をしない。選ばなければ大学進学も簡単…。こうした環境で、子どもに夢を持って頑張る意欲をどう持たせるのか？

役に立てることはないか？　そんな思いが募っていた時、たまたま今回の公募を知り、挑戦を決めました。

文化の薫りに誘われ岡山へ

母校は、国公立進学が中心の松山東高校。瀬戸内地域なので岡山大学のことは「しっかりした総合大学」として知っていました。歴史好きだったので、古代吉備国や倉敷など〝文化の薫り〟に誘われ、法文学部に入学。当時は珍しくないと思いますが、あまり学校に行かず、クラブにも入らない学生でした。ただ、アパート暮らしの学生が多く、下宿つながりで友人はたくさん。だれかの部屋に集まり、しゃべったり、お酒を飲んだり。日生で貰った木箱いっぱいのシャコと、紙パックのワインで安上がりな宴会をしたことをよく覚えています。

気合で入社。校長にも体当たり

会社を選んだ理由は、4大卒の女性が自活できる就職先が少ない時代に、男女の待遇の差がなく、しっかりした経営理念があったから。当時から女性に人気の難関でしたが、中学の水泳部で培った〝気合〟で突破しました。わたしたちの同期は、元気で、何かやってくれそうな人が多い。

わたしも体育会系で、「思い先行型」の人間です。現在は、五日市高校（広島市）で研修中ですが、来年は、どこかの高校で校長になり、現実の壁にぶつかるはず。でも、子どもたちのために体当たりで頑張ります。

泥臭い生きる力を身に付けさせたい

仕事柄、常に教育や子どものことを考えてきました。今は、変化の激しい時代。直面する課題を、すべての知識と経験を駆使して解決することが求められます。高校では、自分で考え、決定し、壁にぶつかったら工夫して軌道修正できる人材を育てたい。とくに、しんどい時に踏ん張れる「泥臭い生きる力」を身に付けるきっかけを、与えたいと思います。人とつながり、力を合わせて頑張ることも、学習や部活、学校行事を通じて知ってほしいですね。

応援し合える人間関係築いて

公募合格までには、「無理だろう」と気持ちが萎えることもありました。そんな時、後押ししてくれたのは、「誰もが経験できることじゃないから、楽しんで」というたくさんの友人の言葉。年齢や職業が違っても、応援し合える人間関係は人生の宝物。学生や卒業生はもちろん、これから出会う生徒ら、すべての人に、「最後に頑張るのは自分でも、一人では難しい。いろんな分野の友達をつくってほしい」と伝えたいです。